

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス すまいるくらぶ			
○保護者評価実施期間	7年 10月 1日 ~ 7年 10月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○従業者評価実施期間	年 月 日 ~ 年 月 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	7年 12月 16日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広いスペースを活かし、子どもたちが日々楽しく活動や余暇時間を使しめられるような環境設定や毎日違った活動を提供し、次に利用するときの「楽しみ」を作ることができている。 職員間の対話を大事にし、日々の支援についてや研修等を通しての知識、技術面の質の向上ができるようにしている。	支援の中でうまくいかなったことなどを終礼などで話し合っている。また、同法人の放課後等デイサービスにも連絡をし、助言をいただき支援に活かせられるようにしている。 介助方法等の疑問については、介護福祉士の資格がある職員を中心に介助方法の見直しを行っている。(安定した移乗方法、ボディメカニズムなど)	一人ひとりの特性にあった活動の提供方法の検討や一つの活動に対してもスマールステップで少しずつできることを増やし、最終的に一つの活動を達成できるように考えていく。
2	毎日活動内容が異なり、誰もが楽しいと思える工夫を行っている。	一人ひとりにあった活動への参加方法を工夫することや一日の流れ、絵カードを用いて次の行動に対しての見通しが立ちやすくしてあり、安心して過ごすことができるようになっている。	活動内容の再検討や長期休みには、地域社会との交流ができるような活動を組み入れていく。
3	苑内の他の障害福祉サービス事業所があり、イベントや余暇時間を通して様々な方との交流ができる。幅広い年齢層の方と交流することで、学校やプライベートでは感じることができない経験ができる。	夏休み期間では、神輿を担いで施設内を回ったり、ハロウィンでは仮装行列を通して、交流を深めている。学校やご家族以外で大人の方と接することがまたコミュニケーションの楽しさを感じることができる。大人の方も子どもたちから元気をもらえており、いい相互関係を形成している。	苑内に限らず、地域の方との交流も増やしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員数が少なく、十分な支援が行うことができていない。	重要なことがあった場合に、配置する職員が少ないことや1人の職員が複数の子どもたちを長時間見ないといけない状況があり、事故につながる可能性も出てくるかもしれない。 送迎も一人で行く日も多く、介助者がいない不安がある。	人員確保や職員一人ひとりの質の向上を図るために、事業所内外での研修や共通認識事項を再確認する時間を作り、職員全員で成長していく。
2	損傷箇所が多い。	これまで修理があまり行われておらず、損傷箇所が多く見られていることで、怪我や事故が起きてしまう可能性がある。	事業所を安全に保つために、早急に修繕を行っていく。
3			